

ふくしま県人会だより

創刊号
平成12年1月
発行
編集
福島県人会
北海道連合会

発刊の「あいさつ」

会長 上田 小八重



本年度の総会で、会長の任を仰せつかりました。浅学、非才ではありますが、伝統ある連合会の栄誉とともに努めてまいりますので、何卒よろしくお願い申し上げます。

このたびの「ふくしま県人会だより」発行は、会員の皆様とよりいっそうの親睦を深め、良き交流の場となることと存じます。

年一回の総会・懇親会は、ご出席の佐藤知事夫妻を囲み、心行くまでの交流が重ねられ、明日への活力溢れるものであります。

母県もますます発展致しております。十月三日は、天皇・皇后ご臨席のもと、「全国豊かな海づくり大会」が、

相馬市松川浦漁港で開かれ、長谷川副会長、末永県事務所長とともに出席いたしました。知事のご挨拶は、「豊かな海を守り育てるには、森づくり、川づくりも重要であることを、県内外に発信したい。」でありました。

二〇〇一年には、「うつくしま未来博」が須賀川市で開催されます。この時には、母県訪問団として皆様と参加したいと存じます。

県から送られてくる「月刊ふくしま」は、郷土の細かな活動を伝えてくれます。各会員ご回覧の上、発展してやまない母県の姿を、懐かしんで頂きたいと存じます。初代会長は、「県人会とは、その緒が繋がっている仲間」と申しました。どんな時でも、この「集団」の力強さと温もりは、乗り切っていく糧となり、力となって行くものです。私はそんな集団の一人であることに誇りを持ってまいります。

終わりに、長い間、本連合会の副会長としてご尽力くださった柳田三郎さんのご急逝に、心からご冥福をお祈りさせて戴きます。

退任のあいさつ

前会長 梅津 一四郎



いよいよ北海道の冬を迎え、これから雪との闘いが始まる季節となりました。私こと連合会長として、三期六年の間、会員の皆様が大変お世話になりました。ご挨拶も申し上げずに失礼しておりましたところ「ふくしま県人会だより」を発行するので、挨拶文をこの事ですので、誌上を借りてご挨拶を申し上げます。

福島県人会連合会は、昭和四十八年に設立された歴史ある会で、歴代の会長も初代は札幌市長を歴任され衆議院議員であった高田富与氏、第二代は元陸軍中將とお聞きしております函館市の渡辺裕之介氏、第三代は札幌市の著名人森口松太郎氏など地位のある有名人ばかりが就任されました。そのため「連合会」は確固たる礎の基に発展を続けて参りました。

平成五年の総会において私が会長に指名されました。この時私はその重責を果たせるかどうか自問自答しました

が「三期だけやらせて貰おう、その後は他の人にやって戴こう」と思い、役員会や総会でその旨申し上げました。その結果、無事任期を終る事ができました。この間、幸いにして母県訪問や「ふくしま国体」更に「県民の日」の制定記念式典に参列することができました。

これらの行事で母県を訪問する度に発展する母県の姿を目で確かめ、肌で感じる事ができました事は何よりの思い出であります。

また、道内行事としては、毎年開催される総会には各地を訪問し、歴代の県知事をお迎えして、会員の皆様との交流を深め、種々お話を承り楽しい一日を過ごさせて戴きました事は永く心に留めておくことができます。

三期六年の間会長の職を勤める事ができましたのも、役員の方をはじめ会員の方々のご指導、ご協力の賜と深く感謝しお礼を申し上げる次第であります。

後任会長には、連合会発足当時から携わっておられ、元函館市議会副議長を歴任された上田小八重氏が就任されました事は喜びに堪えません。

これからも連合会及び各地区県人会の益々のご発展を願ってやみません。最後になりましたが健康が第一です。会員の皆様のご健康とご多幸をお祈り申し上げます。退任の挨拶と致します。

各県人会をより

和気あいあいの函館県人会

函館県人会は発足以来五〇年、会員は五〇餘名、上田会長のもと楽しく運営されている。



新年会を兼ねた総会は、函館市長と県事務所長臨席のもと、毎年成人の日で開催され、議事議決の後、懇親会、ケームなどを楽しむ。

五月十二日には「傷心惨目碑前祭」を行う。五稜郭戦争当時、傷ついた会津藩士が、官軍に惨殺されたのを慰霊する為に建立されたこの碑の前で慰霊祭を行っている。碑は名刹高龍寺境内にあり、慰霊の為に松平前福島県知事

がベニサラサドウゲンツツジを、桜木元会津若松市長が赤松を献樹されている。

春の清遊会は山菜シーズンに合せて行われ、うど、ふき等を採取、筍汁等の郷土料理に舌鼓をうち温泉入浴して帰る日帰りのパーティーである。

秋は自家用車を連ねて近郊を観光する。今年は紅葉を賞でながら、高原の城谷牧場から函館、大野平野を眼下に見て、鹿部間歇泉、三味線滝を訪ねて大船温泉で遊んだ。

県人会北海道連合会総会の第一回目は函館であったが、来年は函館と予定されているようである。上田会長他会員一同万全を期して開催したいと思っているので宜しくお願い致します。

(函館県人会)

苦小牧港まつり

市制五〇周年を迎えた平成十年、市及び市観光協会主催の夏のイベント「苦小牧港まつり」に、市制五〇周年記念事業協賛団体として苦小牧福島県人会以下東北六県県人会連合会が梯団を組織しての「郷土芸能まつり」に出場し故郷の芸能を披露した。

当県人会は、会津若松市と同市観光協会の協力で「ミス会津」六人の来苦を得、会員が汗して作り上げた会津若松城を山車トラックに組立て、その城を背景にステージと街頭約十カ所です会津が会津白虎隊の男踊りと女踊り

を披露し、白虎隊編成の会員と家族の



堂々の隊列と行進に沿道、広場に詰め掛けた大勢の市民から拍手を受けた。

平成十一年にはお祭会場で会員が、にわか店員となり、我が郷土が誇る「福島もも」を会期の三日間に亘って販売した。この桃の美味しさを聞きつけた人が次々と買いに来て売れ行き極めて好調、三日目の午後二時には完売した。

(苦小牧県人会)

会津藩士慰霊祭

別海町福島県人会の事業は、別海町長や農協組合長、隣接県人会の皆様を招待する四月初旬の新年度総会から始まり毎年五〇名以上の方々が出席する。

当県人会には、支部もあり四月下旬

からは各支部でそれぞれ総会を開き、積極的に活動している。

毎年七月には、野付半島会津藩士墓参りを行い、夏草に覆われた会津藩士のお墓の草刈をし、住職の読経の流れの中、献花焼香し、北辺の地で亡くなった藩士の冥福を祈る。(昨年十月には、会津史談会の方々が来町し、県人会役員と町職員がお迎えして共にご供養致した。) 八月には、支部による故郷祭り、ゲートボール、パークゴルフ大会等を行う。十月には道東福島県人会合同観楓会、十二月には支部主催による忘年会、一月には新年会と毎月のように集って故郷の事や近況を語り会員相互の親睦に努めている。

(別海町県人会)



会員通信

福島なまりが懐かしくて

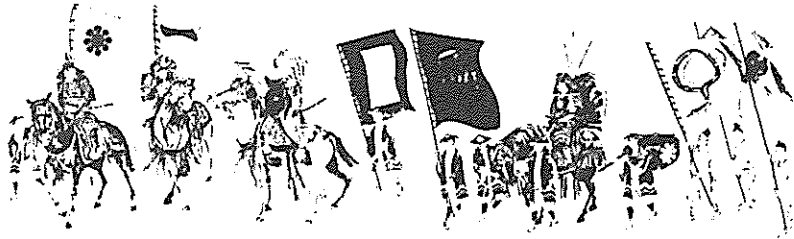
帯広県人会 林 恒材

私は東京池袋で生まれたが、父は明治十八年小高町で生まれ、農家十人兄弟の四番目、苦

学して相馬中学を高成績で卒業、海軍機関学校、海軍大学を経て、昭和六年には戦艦（陸奥）の機関長となり、国連の軍縮で退官、内閣企画院（軍需省）の嘱託、燃料掛を担当する。昭和二〇年

四月、東京池袋大空襲、焼夷弾雨の如く落下の中、九死に一生を得て昭和三五年死去した。

私は東京巢鴨中学校より陸軍士官学校に合格、野戦工兵を修得したが、昭和十六年航空司偵操縦に転科を命ぜられ、北海道



樺太、千島等北方防衛任務につき、幾度か死線に直面するも運良く帯広で終戦を迎え帰農した。

福島なまりが懐かしく、相馬出身柴田明さんの紹介で二世として入会約二〇年になります。

帯広筒井温泉で全道大会が開催され、会長筒井五三郎さん、幹事長を新田現会長さんの実兄新田文雄さんが担当。全道より約二百名を迎え、スムーズに進行、参会者より大好評を賜りました。其後三回ほど開催され「なまり」を求めてお手伝いして参りました。又全道大会地、札幌、定山溪、小樽、函館、旭川、弟子屈、美幌等出席致しました。

一時は会員も二〇名前後に減りましたが、現会長さんが努力され五〇名前後に増えました。しかし、福島も便が良くなり東京に近くなったのか、近頃は福島なまりが聞かれなくなりわびしい気持ちになりますが、之も時代の流れで致し方ないのかもしれない。

会津藩士・宗谷の浜で思うこと

稚内県人会 大塚 允

「たんぽぽや会津藩士の墓はここ」松平元福島県知事が遠路はるばる来稚し、墓参りを戴いた際、揮毫された一首として広く知られている句だ。

文化五年に派遣された会津藩士一千餘名は、一部は宗谷に残り他は利尻礼文

へ、又他の一隊は樺太へと分頓したというのだが、一体全体どんな生活を送っていたのであろう。

幕吏山田半蔵が克明に記した文献を

探ると、斜里の津軽藩兵百名のうち、



水腫病で死亡した数

は七二名との記録を見れば、この地で津軽藩兵に交代した会津藩兵も相当数とその病に罹患し、二度と再び懐かしい故郷の山川を見ることが出来なかつた人も著しい数に上つたと思わざるをえない。

磐梯山や猪苗代湖を見ること無しに朔北の地に果てた人々、幸いにも内藤源助、梶原平馬、幕吏などのように食物や健康に恵まれ無事帰還を果した人々にとっても、何故かしらここ宗谷の地は故郷の山川に類似しているのに、気づいていたのではないだろうか。西の方を仰げば秀峰利尻の山があり、その影を映す宗谷の海はまさしく猪苗代湖を擬すのに十分である。

烈風が吹き付け、大きな流水の団塊が十重二十重と山をなす宗谷の浜にも、

麗らかな春の季節が来ないわけではない。そんな陽気に誘われて浜を散歩する藩兵が居なかつた訳はない、と考えてみたりもする。そして私は思うのである。ああ、その時代に生きてみたかった。流水がブーンと腐った臭いを放つほんだわらや、海の藻屑を持ち去っていった宗谷・清浜にタイムスリップして立ってみたかったなあ。そこには白亜紀の妖精アンモナイトが山となり、累々と転がっていたはずなのである。そして、幸運にもそれを何気なく持ちかえつた藩兵が、先祖伝来の家宝として代々引き継ぎ、今に語り継いでいる旧家がきつとあるはずなのである。宗谷・清浜——会津藩士受難の浜、そして古代のロマンを秘める浜——今は漁も終わりを告げ、真冬日に閉ざされて静かにひっそりと眠っている。

追記

昭和五八年二月、稚内県人会発足以来毎年九月宗谷公園で行われる藩士慰霊祭に会長が参列し弔意を表し、会から供花を捧げております。来稚の際は是非ご連絡ください。一緒に花を手向けましょう。



連合会の活動

福島県人会連合会役員会

日時 平成十一年二月二八日
場所 すみれホテル
出席者 会長他二十八名

第二回福島県人会連合会役員会

日時 平成十一年五月一日
場所 札幌不二ホテル
出席者 会長他二十六名

第二十七回福島県人会連合会総会

日時 平成十一年五月一日
場所 札幌不二ホテル
出席者 会員約一七〇名

今年で二十七回を数える連合会総会が札幌不二ホテルを会場に開催され、県人会活動に尽力された会員へ感謝状が贈呈された。

知事表彰を渡辺保氏(弟子屈町)、連合会長表彰を額田新氏(札幌) 他十五名が受賞した。

又、三期六年に及ぶ長きに渡り連合会の発展に尽力された梅津一四郎連合会長の退任に伴う役員改選が行われ、新連合会会長に函館県人会上田小八重会長が就任した。

総会終了後行われた懇親交流会では、佐藤知事夫妻を主賓にお迎えし、各会員自慢の芸が披露される中、故郷「ふ

くしま」の思い出話に花が咲き、終始和やかな歓談のうちに次回の千歳会場での再会を約し、第二十七回連合会総会の幕を閉じた。



第十九回全国豊かな海づくり大会

日時 平成十一年十月三日
場所 相馬市松浦川漁港
出席者 上田会長・長谷川副会長

第二十八回総会のお知らせ

日時 平成十二年五月二七日
場所 千歳市日航ホテル(予定)

母県動向

◆福島空港国際定期便就航

・六月十七日 中国上海便就航
・六月二十二日 韓国ソウル便就航

◇会津若松市市制施行百周年

・十月十五日 会津風雅堂で式典

◆首都機能移転

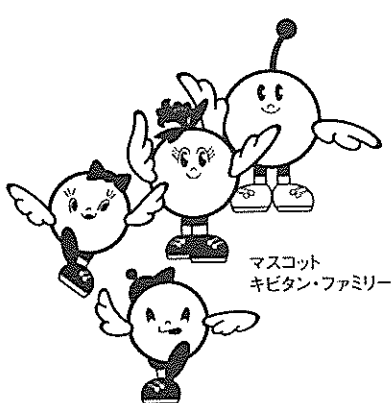
・七月十四日「森にしずむ都市」モデルプランを発表

★うつくしま未来博★

開催日時 平成十三年(二〇〇一年)七月七日〜九月三十日

会場 須賀川市

テーマ 「美しい空間 美しい時」
十一月十五日 会場整備の起工式



会員消息

柳田三郎氏

(やなぎだ・さぶろう) 連合会副会長
平成十一年九月二日逝去。(七二才)

郡山市出身。昭和三〇年厚岸町に入植し酪農営む。昭和五十一年一月に浜中町福島県人会を結成し、会長に就任。その後、連合会役員と昭和五十四年から五十九年まで監事を、平成三年から副会長として活躍。 ~冥福をお祈りします。

編集後記

明けましておめでとございます。

連合会の事務局として「県人会だより」の創刊号を無事発行できホッとしております。お忙しい中、原稿の執筆にご協力戴きました事に深く感謝申し上げます。この「便り」が各県人会及び会員同士の交流の一助になる事を期待しております。

新しい世紀(ミレニアム)に向け、福島県人会の益々の活躍を願っております。

そして、二〇〇一年の七月から始まる「うつくしま未来博」に多くの方々に参加され、母県の発展をつぶさに見ていただければ幸いです。

(所長)
今回は初めての発行で、準備不足でした。皆さんの原稿を待っています。よろしくお願ひします。

(山口)
空からのあまり嬉しくない贈り物「雪」。雪像にして商売にするとは…。初めての「雪まつり」楽しみにしています。(敦夫)

尾岱沼の北海しま海老、根室は花咲力ニ、そして積丹のバフンウニ、今年は何を食べに行こう。

(柳)
事務所の近くにいらした際はぜひ寄って下さい。美味しい?お茶を入れますので…。

(志津)